SOTO禅インターナショナル

発行日　平成6年4月15日　　発行人　松永然道
発行所　SOTO禅インターナショナル事務局　〒361埼玉県行田市下中条1619－2
Tel. 0485-57-0999　　Fax. 0485-57-2347　　振替　東京0－611195 SOTO禅インターナショナル

第　2　号

主な内容

・巻頭 大本山総持寺後堂　大山興隆師
・異文化間コミュニケーションの視点の確立　采川道昭師
・クローズアップ・コーナー　永井成典師
・寄稿「アメリカに見る宗門活動の一風景」五十嵐卓三師
・海外だより
北米 ミネソタ禅センター・サンフランシスコ桑港寺
オークランド「好人庵」ハワイ 太平寺・禅宗寺
・国内インフォメーション
シンポジウム「今問われている平和と曹洞宗の国際化」

開教をふりかえり

大本山総持寺後堂（元ハワイ総監）
大山興隆

疾いもので、当会が発足して一年になる。私は創立発会式のときも出席したので、このような会ができたことに、感慨無量なものを憶える一人です。

私は昭和五十年（一九七五）四月から六年間、ハワイ開教地で布教に従い、八一年四月帰国、そのまま総持寺に再安居し、間もなく十三年になります。曹洞宗のハワイ開教は、明治三六年（一九〇三）広島県出身の河原仙英・菅良雲両師の渡布に始まるので、九一年になる。

ハワイは砂糖耕地またパイナップル耕地労働の働き手、つまり労働移民として明治元年（一八六八）の草分け移民以来、多くの日本人が渡ったことに始まります。

その後、家族呼び寄せがあったり、子供のための日本語学校ができたり、僧侶の布教教化には、本願寺を始め浄土・真言・日蓮など仏教各宗から布教師が派遣されたのです。

わが宗の渡布は、決して早い方ではなかったが、現在開教寺院は十カ寺、開教師の皆さんが日夜に精進努力されています。

ハワイのことのみ記しては申訳ないが、北米も南米も、日系移民が入った時期が遅く、少しづつ開教もおくれたのは、日系人を対象に布教されたことによると思われる。

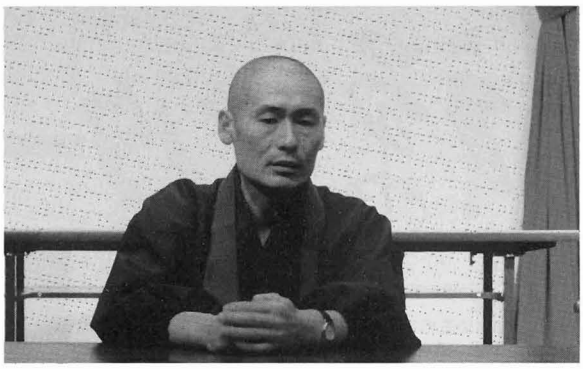
ご承知の如く現在、在日の外国人は百数十万人といわれている。百年程已前から労働移民として日本人が、ハワイ・北米また南米などに渡ったことを憶わずには居られない。

これらの人びとは、いろいろな仕事をもち、それぞれの宗教をもって生活している。そのうちには仏のさしのべる手を俟ち望んでいるものもいよう。

この会が、いろいろな意味で、情報を交換し、ボランティアの役割を担うことができれば幸であると思う。人びとのねがいを適える努力など烏滸がましくもあるが、大切なつとめであろう。

海外（異文化）への伝道には、まず『異文化間コミュニケーション』の視点の確立を

山形県 宝泉寺住職　采川道昭



辦道話のお示しに「この法は、人人の分上にゆたかにそなはれりといへども、いまだ修せざるにはあらはれず、證せざるにはうることなし」とあります。また学道用心集には、「須らく自己本道中に在りて、迷惑せず、妄想せず、顛倒せず、増減なく、誤謬なしということを信ずべし」とあります。あるいは普勧坐禅儀に「道本円通云々」とあり、本来仏徳の備わった我々であることに目覚めるのが仏道の正道であることが、仏典祖禄の至る所に示されております。

正法を伝えるということは、まさにこの本来備わっている仏徳に目覚めさせることでありますから、言葉では、「伝える」とか「伝授する」とか表現しても、何かを伝える訳ではなく、逆に伝えたり伝えられるものは何もなかったことに目覚めさせる事であります。

このことを我々は伝えて来たのでありますが、その様子を「本宗は、釈迦牟尼仏から以心伝心正法を嫡嗣し、歴代の諸祖が相続不断に継承して来た云々」（曹洞宗宗憲 第一章第二条）と表現しているのであります。正法が民族や言語を越えて人類普遍の宝であるゆえんがここにあることは言うまでもありません。

しかしながら正法の相続にはどうしても正法の部分の他に法式作法や清規、すなわち文化といわれるもの（文化、culure＝生活様式、way of life）が付随することは必定であります。それは、曹洞宗宗憲にある「禅戒一如、修証不二の妙諦を実践することを教義の大綱とする」を持ち出すまでもなく、必ず修証という実践、生きた宗教活動が伴うからであります。

正法は、民族や言語や文化をも越えた真理であるはずのものであるのに、この文化という部分で多くの人は越えきれないものを残しているのではないでしょうか。「外国の人には禅は解らないでしょう。」という発言が出てくるのも、この文化という部分で引っ掛かっているからではないでしょうか。その引っ掛かりの原因は文化（形式）が正法（内容）と同じく不変のものであるかのように誤解しているからではないでしょうか。そうして、不変絶対のものであるかのように海外（異文化）の人達に伝えようとする意識が働いているからではないでしょうか。

我々が現在行っている法式作法はインドにその淵源を探ることができますが、中国においては中国風に変容しましたし、それを受け継いだ日本も日本風に変容しています。（アカルチュレーション～文化変容）

つまり現在我々が行じている法式作法にしても先輩中国のそれを忠実に受け継いでいる訳ではなく、日本流に変容したものであります。そればかりでなく国内においても時代とともに変化させて来たことを認識すべきであります。

例えば、読経の仕方ですが、中国では法堂においては立誦であります（庫院での供養は椅子）日本では仏祖に対しては立誦ですが、坐誦という諷経もあり、その正座という座法は日本独特のものであります。この正座もたかだか百年位前から何やら正式な座法の地位を占めて来たものであることは周知のことであります。つまり昔は胡座で諷経をしていたのであります。このように日本風に変容し、さらに時代と共に変化して来ております。近年西洋風の生活が多く取り入れられてきたこともあって、導師以外の僧侶も椅子に腰掛けて諷経することもあります。つまり読経の仕方ひとつを取ってみてもこれまで変化してきたし、現在も変化し続けているのであります。これは読経の仕方ひとつについても比較したり優劣をつけたりすることが出来ないということも示しています。

我が宗門は、「人権、平和、環境」を施策の基本に据えてグ

ローバルな宗団を目指しています。正法という人類普遍の原理（至宝）を継承して来た訳ですから実践の面でも世界に通用するように努力していることは周知のことであります。その世界性に不可欠なものの一つが上記論じて来た文化の面に対する認識であります。法式作法も含めて文化は固定的なものではない、また文化どうしを比較して優劣をつけることは出来ないという認識が大切であります。この文化の面に対する認識を誤ると、日本文化に対する誇りを通り越して優位性を主張したり奢りを抱いたりすることになります。そうなると欧米諸国からばかりでなく、仏教において先輩である近隣諸国からも差別意識として非難されることになります。

わたしたちは、教学、文化をひっくるめて「仏教は、インドで発生し、中国で発展し日本で花開いた」という傲慢な意識をいまだに抱いています。インドや中国の人でなくとも差別意識としてその傲慢さを指摘する程です。（最近の教学では先輩中国さえも否定する更なる傲慢さを露にしたものがあることは周知のことであります）

それに対し、外国の人々は曹洞宗に連なる人ですら決してそうは思っていないことを認識すべきであります。「花開いた」という言葉を使えば「インドにおいてはインドの花が、中国においては中国の花が、日本においては日本の花が花開いたのであり、そしてアメリカにおいてはアメリカの花がスペインにおいてはスペインの花が…花開こうとしている、それは花の美しさというものを比較することが出来ないように比較を絶している」と捉えています。それは同時に、「どの国もどの仏教文化も完結しながらしかも途上である、つまり伝灯祖師でつながり釈迦牟尼仏に直結している」と捉えています。この方が仏法の神髄を示した血脈の精神から見ても当を得た認識であります。

異文化を尊重する上述の視点に照らして、坐禅の仕方について申せば、坐禅のとき「足袋やくつ下は絶対につけないように」という主張がありますが、我が国では（文化として）概ねこうするという程度に止め、これが正法だなどとは主張しない方がよいでしょう。法服についても日本と気候風土が大変異なる国においては、我が国の規定では大変無理が生じるのでその点も海外に対しては寛容でなければならないと思います。実際真夏の接心には着物や直綴をつけないで素肌に直接お袈裟を付けて坐禅しているグループもあります。

最近は椅子坐禅も普及してきましたので、「結跏趺坐でなければ正法の体現ではない」という人は少なくなってきたことと思います。欧米では既に結跏趺坐や半跏趺坐ができない人の為に坐禅用の椅子が用いられております。つまり単の上で座椅子（セイザベンチ）を使った形の正座で坐禅をすることができるようになっています。また単そのものの一部に穴が開くようになっていて、そこに足を下ろして腰掛ける形の坐禅や行鉢を行える禅堂もあります（シャスタアベ）。日本でもようやく足の不自由な人にも坐禅の機会が与えられるようになったわけですが、形式よりも内容に重きを置いてきたならばもっと早くから普及したのではないかと思われます。

坐禅のついでに辦道について述べます、「僧堂がなければ正式の辦道ができない」という主張があります。つまり坐禅ばかりでなく睡眠も食事をとるのも僧堂という一堂において行持しなければ正式の辦道ではない。と主張するものですが、高祖様の頃の中国では僧堂の形式をとっていましたが、帰朝後間もなく坐禅堂と寝堂と斎堂に別けた辦道が多く行われるようになりました。現在多くの専門僧堂では、普段は僧堂では坐禅と就寝を行鉢は庫院で行うことが多いのではないでしょうか。欧米では接心のとき以外は就寝も各寮舎でおこなうことが多いようです。これも文化の違いであり、これによって辦道の真偽を測る訳には参りません。

辦道の真偽は、日常どれだけ無我に徹することができるか、無我を身をもって行じてゆくことができるかにあり、道場の設備や作法（文化）の違いによるものではないことを考えあわせると、文化的側面に対して、より大きな心で捉えることができると思います。

そのことで最近注目にあたいすることがあります。それは平成六年四月七日から七月六日まで開催される予定の師家養成所の開設場所であります。浜松市にある曹洞宗宗立専修道場新豊院で開設されることが発表されておりますが（平成五年十月号宗報）、新豊院には僧堂はおろか坐禅堂もありません。多分坐禅は一般寺院でのそれのように、法堂を禅堂に見立てて行い、行鉢も庫院で行うことでありましょう。就寝も各寮舎でということになるでしょう。曹洞宗の師家を養成する開催場所が一般寺院と全く変わらない設備しかないわけですが、これで十分の辦道ができるとする本庁（内局）の見解はまさに上述してきたことと一致いたします。辦道というものが、設備や形式ではないことを、また設備からおのずと制限される作法ではないことをこれ程はっきりと示した見識は高く高く評価すべきものであります。この見識があれば、二十一世紀を目指し、海外（異文化）の人々とも文化の障壁を越え、共に手を携えて正法の興隆を願い、誓願成就に向うことが出来ると存じます。海外においても曹洞宗の未来が明るいものであると存じます。

クローズアップ・コーナー

この人

元北米ロスアンゼルス禅宗寺駐在開教師
愛知県　宝珠寺住職　**永井成典**

永井成典師は、愛知県の知多半島の先端にある宝珠寺の住職として、また有料老人ホーム「南知多荘」の経営者として、ユニークな活動を展開している。

大学卒業後、ロスアンゼルス禅宗寺開教師として四年間、日系の人達に布教してこられた。海外の地では日本みたいな檀家制度はないので、いかに寺のメンバーとのコミュニケーション（心のふれあい）が大切か身をもって学んできたという。特に引退者ホームやナーシングホームへの慰問は、サンデースクール、坐禅会、法要等と同様に大事な務めで、現在の老人ホーム経営でも役立っているという。

この有料老人ホームは、昭和三十年に成典師のご両親が愛知県ではじめて開設されたもの。ここのホームの特徴は、入居者は年齢制限もなく、国籍、宗教も問わないまさにボーダレス、またこれと言った堅苦しい規則もなく誠に居心地のよい所である。驚くことに、従業員と呼ばれる人はなく、奥さんの佳代さんが全員の食事を受けもっているとのこと。手がまわらないこともあるそうだが、五人の子供をはじめお年寄りも皆助け合って暮らしている。老人ホームというより、大家族そのものである。ちなみに現在の入荘者は二十名。

平成三年十月十八日、境内にたわしでゴシゴシこすって無病息災を祈る「洗い観音」が建立された。これを機に毎月十八日縁日が開かれるようになり、今では口こみで全国各地から参拝者があとを断たない。

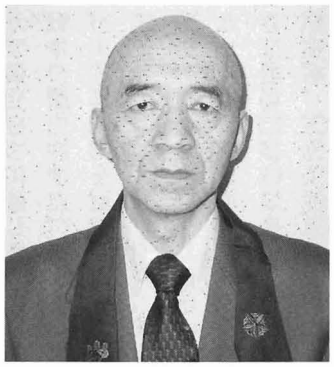
この縁日には、ホームのお年寄りたちが自発的に、お茶やだんご、たこ焼き、甘酒の屋台を出し、無料で参拝する人達へ「こころのおもてなし」をしている。経費はお賽銭で賄っているそうだ。

永井住職は、「縁日がこれほどホームの人達に、やりがいを与えたとは意外であった。外の人達と会話する機会は大事なことで、今後は地域のお年寄りがもっと多く訪れて高齢者同士の交流の輪が広がっていけば」と。そして最後に「お年寄りが人間として生きている実感が持てるようお手伝いさせていただいています」と笑顔で語られた中に永井師の人柄、そして寺のあり方、ホームのあり方を感じ、また今忘れかけている一番大事な人間味のある暖かさ、心のふれあいを感じるひとときでした。

—北米・オークランド—
白雲山「好人庵」禅堂落慶
西海岸の旅七日間
大本山永平寺不老閣猊下
御代香南沢道人監院老師親修
期　日　平成六年六月十七日(金)～二十三日(木)　五泊七日
費　用　二二七、〇〇〇円（概算）
旅行申込　オーシャントラベル株式会社
運輸大臣登録旅行業代理店業二八三〇号
〒171　東京都豊島区西池袋三—二五—一三　リバーストンビル七F
☎　〇三（三九八四）〇八九一

アメリカに見る宗門活動の一風景

山形県・乗慶院住職　五十嵐　卓三

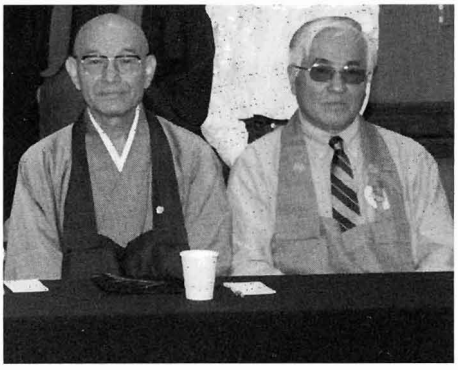


「これまで長い間対立的に考えられていた東西両洋の文化も、人類の文化として交流し一本に融合して人類の文化、世界の文化として、文字通り世界史の時代に進展しつつあるように思う」（「教科研修」創刊号・昭和三十二年一月一日発行）と述べられたのは、元駒沢大学総長・衛藤即応先生であった。そしてまた、「果たして、日本仏教は澎湃として興る此の時代の伸展に即応して、仏教を人類の宗教として国際的伝道に立ち上がるだけの用意と実力とを有しているであろうか」と新たな時代認識を持つよう問題提起された。そして、「曹洞宗にとって宗学研究所と教化研修所は、宗門伝道の車の両輪である」とこの二つの機関の存在意識を強調したのであった。

今や、日本仏教、特に禅は欧米人に広く受け入れられるようになった。アメリカの著名な神学者で「世俗都市」「民衆宗教の時代」の翻訳によっても知られるハーヴィー・コックス氏は、「かつては、東洋哲学に関心を持つ層といえばほとんどが知識人に限られ、しかも、大概は信仰の実践にではなく、その思想に注意が向けられていた。ところが、今では数多くの人々が参加しているばかりか、彼らの関心は教義よりもむしろ、その宗教的実践に向けられているのだ」（東洋へ―現代アメリカ精神の旅―上野圭一訳　平河出版社　一九七九年）と、当時の状況を述べているように、宗門の海外開教師も欧米人に対して積極的な禅布教を展開していった時代であった。アメリカについて言えば、その代表的な一人に、ロスアンゼルス禅センターを主宰している前角博雄師がいる。

師は昭和三十年北米開教師としてロスアンゼルスに赴任し、その十年後アメリカ人に対する禅の伝道に踏み切った。それは坐禅の実践と全米の主要な大学図書館を通した文書伝道にあった。すでに三十年に及ぶ師の禅の伝道は、十指を数える勝れた弟子たちを中心にアメリカ全域にわたって確実に花を咲かせている。そして今、「黒田研究所」を設立し、アメリカの多くの仏教学者の参加を得て、「摩訶止観」の英訳、「中世日本の曹洞禅」の出版等と文書伝道の実をあげている。また、禅の実践面では、［ロスアンゼルス・マウンテン・センター］の建立を目指して、すでに入手した十八万坪の広大な土地に僧堂、食堂などの建立を実現し、いよいよ仏殿、法堂、そして衆寮の建立に着手する段階を迎えている。さらに師は、イタリヤ禅協会、パリに建立されたヨーロッパ袈裟研究協会等との積極的な交流を進めようとしている。

他方、シアトルでは昭和二十九年にハワイ開教師として赴任した市村承秉師が、後に東洋学―インド仏教学の研究に入り現在バークレー仏教研究所付属教授として活躍しているが、ここ数年来「永平清規」「瑩山清規」の英訳に取りかかり、すでにその完訳を実現するに至った。そこでこれを機に、北米総監・山下顕光師、前角博雄師を理事に迎え「北米禅仏教学研究所」を設立、今春ワシントン州から正式にその法人許可を手にすることができた。そして現在、師は各関係者の了解と協力を得て、衛藤即応先生の精魂の書「宗祖としての道元禅師」「正法眼蔵研究序説」の英訳、一代記念事業として大修館発行の「禅学大辞典」の英訳版にも意欲を燃やしている。



思うに、前角、市村両師は共に四十年にわたる在米活動の中で、いま大輪の花を咲かせようとしている。そして、この発願が宗門伝道の［車の両輪］として、アメリカの大地を走りゆく芽生えであることを宗門人の一人として心から願い、両師の大願成就を切に期待したいものである。

海外だより

ハワイ

真珠山大平寺創立七十五周年慶讃法要と記念講演を終えて

駒沢大学教授　小笠原　隆　元

昭和十六年師走八日（アメリカでは七日）にはじまった日米戦争の歴史的地点、パールハーバー、真珠湾を望む所に曹洞宗アイエア・太平寺がある。欧州で第一次大戦が終了した年、一九一八年にアイエア地区の砂糖きび農場で移住以来、甘くはない生活、労働条件下で苦労する日系移民により、日本への郷愁と心の依り所、亡き人々への供養等の為に「真珠山太平寺」が開創された。その後の日米関係の変遷の中でも護持されて、昨年十月二十三・二十四両日にわたり創立七十五周年記念慶讃法要が現住七世住職・主任開教師篠田一法師と檀信徒会員達の一大精進により挙行されました。

今回のハワイ行きは日程調整上から困難であったが、篠田師が駒大在学中からの受講生で教研でも受講生、さらに結婚の仲人役までしているので、万障繰り合わせて来布し、記念晩餐会で英語講演スピーチをせよとのことでもあったので、十九年ぶりぐらいで二度目のハワイ行きを決行し、二十四日朝到着して諸行事に参加し、シェラトンワイキキホテルでの記念会で三十分程英語による講演をさせていただき、翌日は町田時保先生に御案内いただいて駒沢大学と協定校であるハワイ大学・宗教学部を訪問し、タナベ教授と面談後、ハワイ曹洞宗別院・正法寺へ拝登して松浦総監御夫妻、町田先生御夫妻と面談してホテルに帰る。二泊したホテルは、日本人団体客などが充満し、ワイキキの浜辺までほんの百米もない所なのに、部屋の窓から浜辺を見ただけで名古屋空港へとんぼ帰りとなりました。

ちなみに、ハワイ各地には曹洞宗のお寺が十ヶ所に十ヶ寺もあります。

ハワイ

カウアイ禅宗寺創立九十周年記念法要に参加して

静岡県　法幢寺住職　秋　田　新　隆

昨年十一月十四日、ハワイ曹洞宗禅宗寺（カウアイ島）太陽寺（オアフ島ワイパフ）が、菅良雲師、河原仙英師によって創建されてより九十年目にあたりその慶讃法要と先亡開教師、檀信徒総供養、及び平和祈願法要がカウアイ禅宗寺において挙行された。

十三日には、アウトリガーホテルを会場に、第四十六回ハワイ曹洞宗協会代議員会が行われ、「ハワイ曹洞宗ブデズム開教百年に向って」の分科会が“Pure&Simple Life”のテーマのもとに、六つの部会に別れておこなわれた。

①日常の信仰について　②仏教徒の家庭生活について　③お寺でのメンバーの役割と責任について　④お寺と地域社会－お寺の役割について　⑤今後必要とされる開教師について⑥ハワイの特徴を生かし今後の曹洞禅を考える。

両日とも快晴に恵まれ、松浦玉英総監老師をはじめ、各島開教師、YBA（青年仏教会）、日本からも大谷哲夫駒沢大学教授ほか十数名の参列があり、盛大裡に円成した。

しかし、分科会では今後のハワイ仏教について厳しい意見が出され、その対策が早急になされる必要を感じた。

北米

二十周年を迎え新たな決意を!!

ミネソタ禅センター主管　奥　村　正　博

ミネソタ禅センターは一九七二年に設立されましたが、一九九〇年に創立者であり指導者であった片桐老師がガンで遷化されるという試練に出会いました。しかしその後も困難の中で坐禅修業はたゆまず続けられてきました。私は、老師の遺弟のどなたかが後を継ぐ準備が整うまで三年間ということで、昨年八月に当地に参りました。

禅センターの活動は、日曜日を除く毎日朝夕二炷づつの坐禅と毎月の接心が中心です。土曜日の午前には九時から一炷の坐禅のあと、一時間のレクチャー

があります。その後、夫々の担当の仕事を午後二時頃まで行います。一月から三月にかけて、ブディスト・スタディがあります。故老師の御意向で、仏教全般の理解を深める為に毎年テキストを選んで何人かが講義をします。

また、MZMCには、ミネソタ州南部に宝鏡寺という広大な土地があります。一九七七年に購入されましたが、まだ仮りの本堂兼坐禅堂等数棟があるだけです。接心などの際には参禅者はテントで寝泊まりします。厳寒の冬には使用不可能でしたが、この程ようやく坐禅堂に防寒設備が整い冬にも使用できるようになりました。これらの工事は、アメリカ及び日本からの支援金によってなされてきました。この土地に本格的な坐禅道場を創立するのが片桐老師の御計画でした。いまだに道のりは遠いですが、来年から一年を通して何人かが常住できるように考えております。

昨年十一月十三日（土）にMZMC創立二十周年記念祝賀会が行われ百五十人程の人々が集りました。次の二十年に向けて新しい出発をする決意を確認しあいました。

この禅センターは片桐老師が種まきからはじめて育ててこられたものですがまだ小さな苗木の段階です。これから健全に育っていくようにと願い、メンバーの人々と共に精一杯の努力をして参る所存でおります。日本の人々からの御支援をお願い申し上げます。

※故片桐老師の講義録が、近日中、発刊されるとのこと。

オークランド

禅センター「好人庵」禅堂落慶法要 六月十八日厳修される!!

一九八三年好人庵禅窟として開単以来、八七年開教師辞令の公布、九一年に米国の宗教法人認定、本年二月曹洞宗・白雲山好人庵としての認可に至るまで着々と教線を整えてきた同主管秋葉玄吾師が遂に新禅堂の落慶法要を厳修する運びとなった。

六月十八日、永平寺監院・南沢道人老師の御親化にて、日本から約三十人の尊宿と開教師並びに禅センターの諸師の随喜を得て、盛大な法要が執り行なわれる予定。

敷地六〇〇坪の新たな禅堂は名高い加州大学バークレー校を控える閑静な高級住宅地に位置し、美しい自然環境に包まれている。古風を慕う弁道にふさわしい純日本式の僧堂（五間×五間半）と衆寮（五間×三間）本堂兼庫裏（十五間×六間）を擁し、まさに師の標榜する「発展と安らぎ」が体感できる素晴らしい道場となった。

「只管打坐」の現代的あり方と、長い将来を見つめる為の新たな拠点にしたいとの道念を称え、心から祝意を表したい。

米国人への布教の難しさと勧募活動はもとより、隣人の反対と誹謗にあって三度公聴会を開く等、数々の難関を経て漸くこぎつけた祝典ゆえ、その喜びは計り知れないものがあろう。

「これまでに寄せられた多くの御法愛と御支援に対し、紙面を通じ満腔の謝意をお伝え頂きたい」と、秋葉師は語っている。

サンフランシスコ

桑港寺創立六十周年記念式典準備順調に進む!! 平成六年十月八日㈮九日㈯挙行

サンフランシスコ桑港寺は、一九三四年（昭和九年）十二月八日の成道会の佳き日に初代磯部峰仙老師によりその法幡を掲げた。以来、日系同胞の信仰の拠り所とし、またアメリカ参禅研讃の場としてその名を内外に轟かせ今日に至る。その間、歴史の波に飲み込まれ、戦時中の強制収容その他幾多の激動に耐え法燈を守り通してきた。この間、時代の変容に即した各歴代開教師の不退転の道心により、布教の拡張と人心の確保に努めてきた。そして現在の主任開教師第九世・細川正善師は、一九八四年四月、長年の宿願であった新本堂移築落慶法要を故丹羽兼芳禅師を拝請し執り行なったのである。

細川師は、「桑港寺開堂六十周年並びに本堂移築十周年を迎える我々は、このまたとない勝縁に先達諸賢者の遺業に報いるべく、二十一世紀に向け新たな布教伝道を展開していきたく存じます。しかし、今までの布教のように一開教師の孤軍奮闘では今後の海外伝道の将来はなく、

これからは宗門の海外布教に対する明確な方針と宗門全体の深い理解、さらには各開教地での総監部の強い統率がなくては海外布教の将来は望めない」と抱負と展望を述べられている。細川師にとってこの六十周年記念行事は一入の思い入れがあるようだ。記念行事の一環として「禅を聞く会」を企画しており、師の法幢師である福島県興国寺住職・辻淳彦老師に基調講演（同時通訳）を依頼しているという。詳細については、SZI事務局まで。

シンポジウム「今問われている平和と曹洞宗の国際化」

SZI主催　曹洞宗青年会協賛

国際化の波が押し寄せる昨今の情勢を鑑み、SZIは来る六月二日（木）午後一時半より、下記の通り、パネルディスカッション形式でシンポジウムを開催する。世界平和を実現するために宗教者の立場から何らかのアクションが起こされてしかるべきである。このシンポジウムでは、我々のとるべきスタンスを考えていきたい。

南米駐在開教師 佐藤鴻舟師 辞任帰国！

南米ローランジャ仏心寺主任開教師・佐藤鴻舟（富山県明禅寺副住）は、四年間の駐在任務を終え、このたび帰国した。佐藤師は、ハワイ開教師であった師匠・佐藤博道師（現在永平寺直歳）の長男。大変ご苦労様でした。

平成六年度 会費納入のお願い

四月一日より新会計年度となり会員の皆様に年度会費納入のお願いを申し上げます。

同封の振込用紙にてお納めくださいますようお願い申し上げます。金額は次の通りです。

正会員　五千円
賛助会員　一万円以上

総会・シンポジウムご案内

日　時　平成6年6月2日（木）　午後12時30分～
会　場　東京グランドホテル「蘭」の間
日　程　受付 正午～
総　会　午後12時30分～

シンポジウム

「今問われている平和と曹洞宗の国際化」
主催 SZI　協賛 曹洞宗青年会

基調講演	午後1時30分～午後2時 宗務総長・伊東盛熙老師
パネルディスカッション	午後2時～午後4時
コーディネーター	田上太秀 氏（駒沢大学副学長）
パネリスト	奈良康明 氏（駒沢大学教授） 井桁　碧 氏（聖心女子大学講師） 松永然道 氏（SVA会長） 海外駐在開教師（交渉中）
懇親会	午後4時～午後6時
会　費	シンポジウム　3,000円 懇親会　7,000円

編集後記

サラエボ女子フィギア金メダリスト＝カタリナ・ビット選手が、リネハンメル・オリンピックに参加し、華麗な演技を披露してくれた。サラエボの悲劇を黙視せず、世界の人々が見つめる氷上で平和を訴えた彼女の英断に拍手を送りたい。

宗門は、「平和」の旗を掲げている。我々も一宗教者として、微力ながら真の世界平和を確立するために、ビット選手のように何らかのアクションを興すべく考えたいものである。（伸）

二月七日の役員会では総会や会報の件は本より、種々の意見が百出した。活発な討議や熱い意見交換の機会と、形に纏め得るシンクタンク的機能が是非必要と、総会を兼ねたシンポジュウム案が浮上したのもこの為。他にも「中国残留婦人の特別身元引き受けへの支援」「宗風挙揚と次世代への布教」も亦、異文化間の適応の問題に外ならぬと見るべきか。「インターナショナルとは」「SZIの意義」に対する認識度と株の底上げの為、世界的大物の講演というアドバルーンも効果的では、etc。総会での多くの文殊の智慧を、今から楽しみとしている。（満）

SOTO禅インターナショナルが正式に発足して一年が過ぎ、今年度より実質的な活動を開始していくめどが立ちました。

この一年の間に数多くの方々のご賛同、並びにご協力を頂戴してまいりました。しかし、会をスタートさせることの大変さを実感する貴重な経験もさせていただきました。

大団体の曹洞宗内の固定的観念にこだわらない、より自由な国内外の布教を摸索して行くとゆう会の方針を基に、会の活動を進めて行くということになり、大きな視野の平和と国際化を見つめて、考えていきたいと思います。（応）